

令和2年度（2020年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和2年7月 現在

No.	局名	市町村名	氏名	職業等	主な活動	推薦者	任期	備考
1	空知	雨竜町	外山 謙一	無職	農村景観保全・自然再生活動等	土地連	令和4年3月31日	
2	空知	沼田町	野 道夫	無職	自然再生活動等	町長	令和3年3月31日	
3	空知	岩見沢市	高柳 広幹	改良区職員	環境整備活動等	土地連	令和3年3月31日	
4	空知	岩見沢市	小西 泰子	農業	地域活動全般	市長	令和3年3月31日	
5	空知	栗山町	金丸 大輔	地方公務員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
6	石狩	石狩市	阿岸 哲広	改良区職員	環境整備指導等	土地連	令和3年3月31日	
7	後志	喜茂別町	遠城 諭史	会社員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
8	後志	喜茂別町	坂爪 洋介	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
9	後志	喜茂別町	白川 博順	地方公務員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
10	後志	蘭越町	松山 廣	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
11	胆振	厚真町	荒城 敏文	改良区職員	環境整備活動等	土地連	令和3年3月31日	
12	胆振	洞爺湖町	青山 伸子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
13	日高	浦河町	中村 勇市	農業	環境整備・農作業体験	土地連	令和3年3月31日	
14	日高	浦河町	中川 貢	団体職員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
15	日高	浦河町	以西 明美	自営業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
16	日高	新冠町	佐藤 剛	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
17	日高	日高町	田中 義光	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
18	渡島	知内町	佐藤 暁樹	住職	自然観察指導	町長	令和3年3月31日	
19	渡島	知内町	笠松 悦子	農業	農産物加工販売等	町長	令和3年3月31日	
20	渡島	八雲町	小林 石男	農業	地場産品加工直売	町長	令和3年3月31日	
21	渡島	八雲町	元山 美芳	農業	農産物加工販売等	町長	令和3年3月31日	
22	渡島	七飯町	田中 いずみ	無職	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
23	檜山	厚沢部町	佐々木 俊司	会社役員	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
24	檜山	江差町	小笠原 明彦	団体嘱託員	農村景観・農作業体験指導	土地連	令和4年3月31日	
25	檜山	上ノ国町	吉見 俊彦	無職	農村環境・景観保全活動等	土地連	令和5年3月31日	
26	檜山	せたな町	富樫 一仁	農業	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
27	上川	幌加内町	中村 雅義	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
28	上川	南富良野町	岩永 かずえ	農業	農産物地産地消活動等	町長	令和5年3月31日	
29	上川	南富良野町	鷹嘴 充子	会社役員	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
30	上川	当麻町	小野寺 孝一	無職	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
31	上川	上川町	佐藤 績	農業	地域活動全般	土地連	令和5年3月31日	
32	上川	上川町	辰巳 明美	農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
33	上川	中富良野町	久保 照美	花卉卸し販売	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
34	上川	鷹栖町	池田 修也	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
35	上川	鷹栖町	中江 正博	改良区職員	地域活動全般	土地連	令和4年3月31日	
36	留萌	小平町	長澤 政之	地方公務員	自然体験指導	町長	令和4年3月31日	
37	留萌	小平町	高野 幸子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
38	留萌	苫前町	高瀬 徹	団体職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
39	留萌	苫前町	福田 怜也	団体職員	環境整備活動等	町長	令和5年3月31日	
40	宗谷	稚内市	菊池 工	会社員	地域活動全般	市長	令和5年3月31日	
41	宗谷	豊富町	尾崎 滋	団体職員	都市農村交流等	町長	令和5年3月31日	
42	林-ツ	北見市	馬淵 陽子	農業	農産物直売等	市長	令和3年3月31日	
43	林-ツ	北見市	黒須 倫子	農業	地域活動全般	土地連	令和3年3月31日	
44	林-ツ	湧別町	久保 美恵子	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
45	林-ツ	清里町	柳谷 亜紀子	農業	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
46	林-ツ	興部町	仲元寺 恒平	団体職員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
47	林-ツ	興部町	八木 実央	地方公務員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
48	林-ツ	雄武町	石井 恭子	会社員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
49	林-ツ	津別町	佐野 多希子	農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
50	林-ツ	美幌町	午来 博	地方公務員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
51	十勝	帯広市	伊藤 由紀子	酪農業	地域活動全般	市長	令和4年3月31日	
52	十勝	鹿追町	高橋 貴子	会社員	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
53	十勝	本別町	岡崎 慶太	会社役員	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
54	十勝	本別町	谷口 まどか	管理栄養士	地域活動全般	町長	令和4年3月31日	
55	釧路	鶴居村	服部 政人	団体職員	都市農村交流等	村長	令和4年3月31日	
56	釧路	鶴居村	水本 梨佳	酪農業	地域活動全般	村長	令和5年3月31日	
57	釧路	厚岸町	高橋 美佐子	無職	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	
58	根室	別海町	水沼 和子	無職	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
59	根室	別海町	渡邊 広美	酪農業	地域活動全般	町長	令和3年3月31日	
60	根室	別海町	尾形 好枝	酪農業	地域活動全般	町長	令和5年3月31日	

令和2年度（2020年度）北海道ふるさと・水と土指導員名簿

令和2年3月 現在

ブロック	委員（市町村）、◎会長、○副会長、△幹事、アンダーラインは女性			
道央17名	空知5名	△外山 謙一（雨竜町）	日高5名	中村 勇市（浦河町）
		野 道夫（沼田町）		中川 貢（浦河町）
	後志4名	高柳 広幹（岩見沢市）	胆振2名	以西 明美（浦河町）
		小西 泰子（岩見沢市）		佐藤 剛（新冠町）
金丸 大輔（栗山町）		△田中 義光（日高町）		
遠城 諭史（喜茂別町）		石狩1名		◎阿岸 哲広（石狩市）
坂爪 洋介（喜茂別町）				
道南9名	渡島5名	白川 博順（喜茂別町）	檜山4名	佐々木 俊司（厚沢部町）
		松山 廣（蘭越町）		小笠原 明彦（江差町）
		佐藤 暁樹（知内町）		△吉見 俊彦（上ノ国町）
		笠松 悦子（知内町）		富樫 一仁（せたな町）
		○小林 石男（八雲町）		
道北13名	上川9名	元山 美芳（八雲町）	留萌4名	長澤 政之（小平町）
		田中いずみ（七飯町）		△高野 幸子（小平町）
		中村 雅義（幌加内町）		高瀬 徹（苫前町）
		○岩永かずえ（南富良野町）	宗谷2名	福田 怜也（苫前町）
		鷹嘴 充子（南富良野町）		菊池 工（稚内市）
		△小野寺 孝一（当麻町）		尾崎 滋（豊富町）
		佐藤 績（上川町）		
		辰巳 明美（上川町）		
		久保 照美（中富良野町）		
道東19名	林-ㇿ9名	池田 修也（鷹栖町）	十勝4名	伊藤 由紀子（帯広市）
		中江 正博（鷹栖町）		△高橋 貴子（鹿追町）
		△馬淵 陽子（北見市）		岡崎 慶太（本別町）
		黒須 倫子（北見市）		谷口 まどか（本別町）
		久保美恵子（湧別町）	釧路3名	○服部 政人（鶴居村）
		柳谷亜紀子（清里町）		水本 梨佳（鶴居村）
		仲元寺恒平（興部町）		高橋 美佐子（厚岸町）
		八木 実央（興部町）	根室3名	水沼 和子（別海町）
		石井 恭子（雄武町）		渡邊 広美（別海町）
佐野 多希子（津別町）	尾形 好枝（別海町）			
		午来 博（美幌町）		

計60名

令和2年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 事業スケジュール

R3. 3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会				第1回 7月21日								第2回 3月18日 (Web)
委員による意見交換会								上ノ国地区 (上ノ国町) 11月24日 ※中止	本別地区 (本別町) 12月1日 ※中止 オホーツク 広域地区 (網走市) 12月16日 ※中止			
指導員 関連事業				第1回 幹事会 (札幌) 7月9日 現地研修 (道北・留萌) 7月15～16日 ※中止				現地研修 (道南・渡島) 10月22～23日 ※中止 振興局・ ブロック別 会議 (道東) 10月29日～ 30日	振興局・ ブロック別 会議 (道南・七飯) 12月7日 ※中止	振興局・ ブロック別 会議 (道央・空知) ※中止	第2回 幹事会 (書面開催) 地域づく り研修会 (札幌) 2月16日 (Web併用) 指導員会 (札幌) 2月16日 (Web併用)	
その他				農水省ふる水 基金全国 担当者会議 ※中止			情報誌 里づくり 21号 メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)					情報誌 里づくり 22号

令和2年度（2020年度）研修事業

1 メルマガ「里づくり通信」の発行

- (1) 発行 毎月、随時
- (2) 内容 委員会、研修事業、指導員の活動状況等について

2 第1回幹事会

- (1) 日時 令和2年7月9日（木） 13:30～15:00
- (2) 場所 自治労会館5階 第3会議室
- (3) 出席者 11名（うち幹事7名）
- (4) 内容 役員の改選、指導員委嘱状況の報告、第4期事業実施計画の報告、
現地研修、振興局・ブロック別会議の開催の是非、内容検討

3 情報誌「里づくり21号」

- (1) 発行 令和2年8月26日
- (2) 部数 2,000部
- (3) 内容 リレーインタビュー 北海道大学地域土着型サークル「いなかっぺ」
ふる水指導員レポート 高橋美佐子指導員
その他 新任指導員紹介等

4 現地研修 ※中止

- 日程・場所 令和2年7月15日（水）～16日（木）・留萌管内
令和2年10月22日（木）～23日（金）・渡島管内

5 振興局・ブロック別会議

- (1) 道北ブロック
 - ア 日程 令和2年9月2日（水）
 - イ 場所 旭川市
 - ウ 出席 19名（うち指導員10名）
 - エ 内容 活動報告：菊池指導員、岩永指導員、留萌振興局、小野寺指導員
- (2) 道東ブロック
 - ア 日程 令和2年10月29日（木）～30日（金）
 - イ 場所 津別町
 - ウ 出席 13名（うち指導員7名）
 - エ 内容 現地視察：
私設美術館「シゲチャンランド」について（造形作家 大西重成氏）、
道東テレビ及びコワーキングスペース JIMBA について（(株)道東テレビ
立川彰氏）、森のこだま活動内容（NPO 法人森のこだま 上野真司氏）
活動報告：高橋（貴）指導員、服部指導員、高橋（美）指導員、馬淵指導員、
黒須指導員、柳谷指導員、佐野指導員
- (3) 道南ブロック ※中止
 - ア 日程 令和2年12月7日（月）
 - イ 場所 七飯町
 - ウ 内容 講演会
- (4) 道央ブロック ※中止
 - ア 日程 令和3年1月下旬
 - イ 場所 岩見沢市
 - ウ 内容 指導員活動報告等

6 第2回幹事会 ※書面開催

- (1) 日 程 令和3年1月20日(水)～2月9日(火)
- (2) 内 容 次期幹事の選任、令和3年度各研修の日程等の検討

7 地域づくり研修会

- (1) 日 程 令和3年2月16日(火) 13:20～16:00
- (2) 場 所 京王プラザホテル札幌3階 雅の間
- (3) 出 席 会場 24名(うち指導員7名)
Web配信 45名(うち指導員12名)
- (4) 内 容
 - ア 基調講演 北海道大学大学院農学研究院講師 山本忠男氏
「コロナ禍での地域づくりを考える」
 - イ パネリスト活動報告 北海道ふるさと・水と土指導員 谷口 まどか氏
NPO法人やくも元気村事務局長 赤井 義大氏
NPO法人るもい農業応援隊事務局長 佐藤 武志氏
 - ウ パネルディスカッション

8 指導員会

- (1) 日 程 令和3年2月16日(火) 16:10～16:40
- (2) 場 所 京王プラザホテル札幌3階 雅の間
- (3) 出 席 会場 11名(うち指導員7名)
Web配信 25名(うち指導員12名)
- (4) 内 容 次期幹事の選任、令和3年度各研修の日程、振興局・ブロック別会議の検討等

9 情報誌「里づくり」22号

- (1) 発 行 令和3年2月24日
- (2) 部 数 2,000部
- (3) 内 容 リレーインタビュー① NPO法人八剣山エコケータリング代表 ビアンカ・フルスト
リレーインタビュー② 余市町漁港ガイド 吉田真也
その他 新規委嘱者紹介等

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画(案)

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和3年度)

計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

北海道

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	<p>本道の農村は、農家戸数の減少や高齢化の進行などが続いており、コミュニティ機能が脆弱化し、地域の活力の低下が顕在化している。</p> <p>特に、中山間地域においては、農地の立地条件が悪く、生活環境等の定住条件に恵まれないため、過疎化・高齢化が進み、担い手への集積が進まず遊休農地が増加するなど、農業生産活動の停滞はもとより、農村らしいコミュニティ機能や農業・農村の多面的機能の発揮に支障を来している状況にある。</p> <p>このため、農地や土地改良施設、自然環境、景観など地域の多様な資源を活かして、生態系の保全整備や都市との交流、地域の特色ある料理の開発など様々な活動を促進してきたが、地域の自立した持続的な取組には至っていない状況にある。</p>
事業実施の基本方針	<p>農地や土地改良施設、自然環境、景観、伝統文化などの多様な資源を発掘し、これら資源を地域住民が主体性を持って活かした多様な活動をモデル的に実施することでその効果を検証する。</p> <p>具体的な方法としては、地域の現状把握や住民意識の醸成、明確な目標を設定した3年程度の活動計画の策定、計画に基づいた実践活動、活動の評価・検証などの地域住民による主体的な取組を支援することにより、住民の自立意識を醸成し、継続性を持った効果的な住民活動が実施されるよう促す。</p> <p>また、こうした活動の事例を全道に広げるとともに、地域の様々な資源を活用した多様な住民活動を実践・指導する人材として、ふるさと・水と土指導員を委嘱し、地域づくりに貢献できるように様々な研修機会の提供により、その人材の育成に努める。</p> <p>これらの取組の成果については、全道各地で住民活動の活性化を図る観点から、HPや情報誌の発行などを通して、全道に普及する。</p>
事業実施計画	<p>全道各地で地域の多様な資源を活かし、自立意識を持った住民の活動が持続化することにより、農業・農村の有する多面的機能を良好に発揮させ、中山間地域の活性化を図る。</p>

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容					総事業費
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
地域活動支援事業	道内における地域住民活動の活性化を図るため、他の地区のモデルとなるような多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区をモデル的に支援することでその効果を検証する。	①	ふる水 第3-2-(1) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	地域の現状を把握し、住民の地域づくりへの意欲を醸成するため、住民の意識調査やアドバイザーを招いた勉強会などの開催、その後の地域住民活動の目標と具体的な活動内容等を定めた3年程度の活動計画の策定、計画に基づく実践活動、活動のステップアップを図るための評価・検証など地域住民が主体となった取組の支援を5ヶ年で10地区程度実施する。					
人材育成	活動の実践と地域住民活動の活性化に向けた指導・助言等を行う人材として、北海道ふるさと・水と土指導員を育成する。	②	ふる水 第3-2-(2) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	多様な地域住民活動を実践・指導する人材として北海道ふるさと・水と土指導員を委嘱し、指導員相互の情報交換と地域づくりの手法等習得のための研修会や現地研修会を5ヶ年で20回程度開催する。 また、地域住民活動の活性化を図る地域をさらに広げるため、5ヶ年で10人程度新たに指導員を委嘱する。					
推進事業	事業の円滑な執行と効果的な推進、地域住民活動の拡大を図る取組を行う。	③	ふる水 第3-2-(3) 棚田 第3-2-(1) 第3-2-(2)	事業の進捗状況に応じた効果的な助言を得て、事業の推進を図っていくため、5ヶ年で10回程度委員会を開催する。 また、事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、市町村や各種活動団体に対し、5ヶ年で10回程度、独自の情報誌を発行するほか、適宜事業の制度説明や活動事例の提供を行う。					
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
中山間ふるさと・水と土 保全対策事業費 (ふる水と土基金)	計画事業費			13,630					
	(実績額)								
中山間ふるさと・水と土 保全推進事業費 (棚田基金)	計画事業費			780					
	(実績額)								

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
①	地域活動支援事業	多様な地域資源を活かした住民活動を支援する地域活動支援地区数	10地区	2地区						
②	人材育成	指導員等の資質向上のための研修会等の開催数	20回	2回						
		指導員の委嘱人数	10人	4人						
③	推進事業	事業の推進に係る効果的な助言を得るための委員会の開催数	10回	2回						
		情報誌の発行回数	10回	2回						

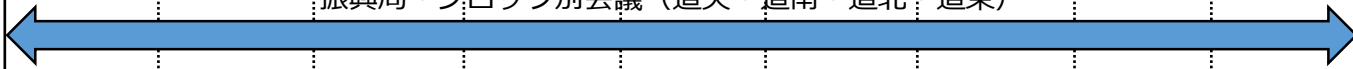
4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考	
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針		
①	地域活動支援事業	新たな支援地区として2地区採択し、住民同士の話し合いによる地域資源の点検や講習会を開催するなど、地域の現状把握と地域づくりへの住民意識の醸成を図った。今後も取組への支援を継続すること。	関係機関とも連携し、事業を効果的に活用できるよう地域住民が主体となった多様な取組みや活動を掘り起こす。	
②	人材育成	新型コロナウイルス感染症の影響により、バス移動等を伴う現地研修は中止となった。指導員会及び地域づくり研修会は、会場においては感染症対策を徹底した上、オンラインも併用し、遠隔地に在住する指導員も参加できるよう開催されていた。指導員の委嘱は今後も幅広い人材発掘に努めること。	研修会等は感染症対策を徹底した上、必要に応じオンラインも併用し、開催する。指導員委嘱については関係機関とも連携の上、指導員として適当と認められる人材の発掘に努める。	
③	推進事業	計画どおり実施されている。今後も事業のPRに努めること。	事業の成果や農業・農村が持つ多面的機能の役割が広く道民に理解され、住民意識の向上や道内各地における住民活動が活発化するよう、情報誌発行のほか、適宜事業の制度説明や活動事例の提供を行う。	

令和3年度北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 スケジュール (案) 資料4

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研修事業	道主催の研修		第1回幹事会 (札幌)			現地研修 (道北 留萌)		現地研修 (道南 渡島)				第2回幹事会 (札幌)	
	他主催の研修						全国研修 (東京) ※未定						
	情報誌等の発行				里づくり 23号	メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)				里づくり 24号			
推進事業	委員会			第1回委員会									第2回委員会
	活動地区と委員との意見交換会				厚床地区・上ノ国地区・由仁地区・本別地区・オホーツク広域地区								
	その他				新・田舎人 108号		新・田舎人 109号			新・田舎人 110号			新・田舎人 111号
その他				農水省 ふる水基金 全国担当者 会議 ※未定									

振興局・ブロック別会議 (道央・道南・道北・道東)



メルマガ「里づくり通信」(毎月、随時)



地域活動支援地区の掘り
起こし強化期間(2回)



令和3年度（2021年度）
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画(案)

1 地域活動支援事業

- (1) 実践活動地区（5地区、括弧は年次）
根室市厚床地区（4）、上ノ国町上ノ国地区（4）、由仁町由仁地区（3）
本別町本別地区（1）、オホーツク広域地区（1）
- (2) 住民意識醸成地区
新規地区（2地区程度を掘り起こし）

2 研修事業

- (1) 指導員の委嘱（随時）
- (2) 全国研修（未定）
- (3) 地域づくり研修会（2月中旬 札幌市）
- (4) 現地研修（道北・留萌 7月中～下旬）
（道南・渡島 10月中～下旬）
- (5) 北海道ふるさと・水と土指導員会幹事会（5月、2月中旬 札幌市）
- (6) 北海道ふるさと・水と土指導員会（2月中旬 札幌市）
- (7) 振興局・ブロック別会議 ※日程、開催方法等検討中
- (8) 情報誌「里づくり」の発行 2回（7月、12月）
- (9) メルマガ「里づくり通信」の配信 毎月

3 推進事業

- (1) 委員会の開催 2回（6月、3月）
- (2) 活動地区との意見交換
（厚床地区、上ノ国地区、由仁地区、本別地区、オホーツク広域地区）
- (3) 地域活動支援事業地区の掘り起こし強化（7月、10月）
- (4) ホームページの更新
 - ① 指導員プロフィール
 - ② 事業紹介、委員会記録及び活動実績等の情報
- (5) 啓発普及
「新・田舎人」（108～111号）の配布

地域活動支援事業

令和3年度（2021年度）活動計画

別記様式第4号
活動計画

団体名		厚床地域農村再生プロジェクト プロジェクトチーム					市町村名	根室市			地区名	厚床				
めざす姿		地域資源を活かし、農商工連携を促進しながら、都市と地域の交流拠点づくりに取り組み、地域の活性化を図る														
活動の方向	No.	活動の内容				目標(数値・定性)				解決すべき課題						
	①	◇厚床地域ビジョン作成に関する取組み ・地域間及び世代間交流人口の増加 ・地域資源(魅力)の確認				<ul style="list-style-type: none"> ・地域ビジョン作成 ・防災キャンプ開催 ・あつとこ農園開設 ・自然学習会開催 ・フットパス整備 ・交流会開催 ・視察研修 				<ul style="list-style-type: none"> ・地域マップ作成 ・PR動画作成 ・ワークショップ開催 				<ul style="list-style-type: none"> ・地域への活動内容の周知及び理解を得る ・農繁期の活動体制 ・関係機関との連携強化 ・役割分担の確立 		
	②	◇活動内容の地域への周知及び理解の促進				<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を活用した情報発信 ・ワークショップ開催 				<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担の確立 						
3年間の活動プロセス	活動事項	関連No.	令和2年度(当初)			令和2年度(変更)			令和3年度			最終目標	適用事業			
			内容	予算額(千円)	年度目標	内容	予算額(千円)	年度目標	内容	予算額(千円)	年度目標					
	厚床地域ビジョン作成に関する取組み	①	防災キャンプの開催	900	1回	※中止	0		防災キャンプの開催	1,100	1回		中山間ふるさと・水と土保全対策事業			
		①	フットパスコース整備	210		※中止	0		フットパスコース整備	510						
		①	あつとこ農園	200		※中止	0									
		①	ワークショップ開催	390	4回	ワークショップ開催	390		ワークショップ開催	390	4回					
		①	自然学習(巣箱作り、バードウォッチング)	50	2回	※中止	0									
		①	交流会(パークゴルフ、百人一首、食事会など)	10	2回	※中止	0									
		①	視察研修	180		※中止	0									
		①				地域住民アンケート調査	633									
①																
計			1,940			1,023			2,000							
		ワークショップ、住民アンケート		北海道大学大学院農学研究院 准教授 小林 国之												
		フットパスコース整備		専修大学 教授 泉 留維												
		防災キャンプ		北海道教育大学釧路校 准教授 宮前 耕史												

令和3年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【根室振興局】

市町村名	根室市	活動地区名	厚床	
活動団体名	厚床地域農村再生プロジェクトチーム			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	防災合宿(3泊4日)	08_旅費	450,000	札幌～根室*5(航空機)
		08_旅費	200,000	釧路～根室*5(列車)
		10_需用費	250,000	食材、資材等
		13_使用料及び貸借料	200,000	バス借上
①	フットパスコース整備	10_需用費	210,000	長靴、スコップ等
		12_委託料	300,000	プロモーション動画作成
①②	ワークショップ	07_報償費	160,000	10,000円*4h*4回
		08_旅費	230,000	航空機,日帰り*4回
合計			2,000,000	
費目計		07_報償費	160,000	
		08_旅費	880,000	
		10_需用費	460,000	
		11_役務費	0	
		12_委託料	300,000	
		13_使用料及び貸借料	200,000	

別記様式第4号
活動計画

団体名	松山南部サヤエンドウ生産組合企画班			市町村名	上ノ国町			地区名	上ノ国				
めざす姿	「絹さやえんどう」を活用して、上ノ国町の「食」の魅力を地域内外に発信し、また地産地消を促進することで地域内経済を活発にして地域振興、産地の維持を図る。												
活動の方向	No.	活動の内容			目標(数値・定性)			解決すべき課題					
	①	町民の「絹さやえんどう」に対する関心を高める。			・町内の小学校等対象にした食育活動の実施。(年1回)			・食育活動が継続しておこなわれる関係づくり。					
	②	地元料理店と連携し、「さやえんどう料理、加工品」の開発、地元定着を図る。			・地元料理人と料理、加工品に関する検討。(年1回)			・さやえんどう料理、加工品の地元定着。					
	③	活動体制を強化する。			・農業者、商工観光業者等と今後の活動について検討。(年1回)			・継続的に活動を展開する関係づくり。					
	④	「絹さやえんどう」を町内で流通させる。			・農業者、需要者等と町内流通について検討。(年1回)			・町内流通の定着。					
3年間の活動プロセス	活動事項	関連No.	令和2年度(当初)			令和2年度(変更)			令和3年度			最終目標	適用事業
			内容	予算額(千円)	年度目標	内容	予算額(千円)	年度目標	内容	予算額(千円)	年度目標		
	町民向けの食育活動	①	上ノ国サヤエンドウ料理教室の開催	34.71	1回/年(2月)	※中止						町民が「上ノ国＝絹さやえんどう産地」であることへの理解	中山間ふるさと・水と土保全対策事業
			上ノ国産サヤエンドウのPR	370	2回/年(8-11月)	※中止			上ノ国産サヤエンドウのPR	145.0	1回/年(3月)		
			地元学校とのさやえんどう利活用連携活動	50	3回/年(10-11月)		20.65	1回/年(11月)	地元学校とのさやえんどう利活用連携活動	120	1回/年(11月)		
		「サヤエンドウ料理、加工品」の開発、定着	②	さやえんどう加工品の開発	60	3回/年(6-10月)	※中止			地元料理人と料理、加工品に関する検討	33		
活動体制の強化	③							農業者、商工観光業者等と今後の活動について検討	1	1回/年(6-10月)	持続性のある活動体制の確立		
「絹さやえんどう」の町内流通	④	「絹さやえんどう」地域内販売の試行	0	1回/年(6-10月)		0	1回/年(6-10月)	農業者、需要者等と町内流通について検討	1	1回/年(6-10月)	「絹さやえんどう」の町内流通		
計			515			21			300				
関係者等	上ノ国町		農林課農業林業グループ主査 連絡先 0139-55-2311 石山 雄大										
	JA新函館厚沢部基幹支店		生産施設課調査役 出口 秀樹										
	上ノ国町商工会青年部		部長 久末 元										

令和 3 年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【檜山振興局】

市町村名	上ノ国町	活動地区名	上ノ国	
活動団体名	桧山南部サヤエンドウ生産組合企画班			
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠
①	地元学校とのさやえんどう利活用連携活動	10_需用費	120,000	食材費等
	上ノ国産サヤエンドウのPR	10_需用費	145,000	【ヨコノ印刷】 500部×290円
②	地元料理人と料理、加工品に関する検討	07_報償費	10,000	2時間×5,000円
		10_需用費	23,000	食材費等
③	農業者、商工観光業者等と今後の活動について検討	13_使用料及び貸借料	1,000	会場代
④	農業者、需要者等と町内流通について検討	13_使用料及び貸借料	1,000	会場代
合計			300,000	
費目計		07_報償費	10,000	
		08_旅費	0	
		10_需用費	288,000	
		11_役務費	0	
		12_委託料	0	
		13_使用料及び貸借料	2,000	

別記様式第4号
活動計画

団体名	WEAVE		市町村名	由仁町		地区名	由仁地区						
めざす姿	<p>由仁町は、札幌圏に比較的近いという立地条件も影響し、過疎化・高齢化が進行し、農村地域としてのコミュニティの脆弱化が深刻で、地域の活力が低下している。このような中、町内には町外から農家へ嫁に来た女性が多く、この女性たちの中から「町内に知人が少ないため、農家の友人を作り情報交換したい。」「地域や農業のことが分からず不安なので、もっと知りたい。」などの要望が上がり、普及センターが仲介役となって若手女性の会『WEAVE』（編む、織るという意味）が平成25年3月に設立された。会の目的としては、地域・農業への理解を深め、仲間づくりを行うことで、地域の活性化に貢献することである。農村地域にとって、女性たちの存在は活性化のキーになる。今後、この『WEAVE』の活動を促進することにより、高齢者などが蓄積している食に関する伝統技術を継承し、イベントなどを通じて町内外の活発な交流を進めることで、『WEAVE』のメンバーを含め多くの人たちが地域の魅力を再発見し、コミュニティが元気になり、生き活きと農村生活を送ることができるようになる。また、乾燥野菜の販売などを通じて、『WEAVE』の持続化を図り、メンバーの生きがいの創造を進め、このような仲間の拡大を促進することで、由仁町全体の魅力と地域力の向上を図るものである。</p>												
活動の方向	NO	活動の内容			目標(数値・定性)		解決すべき課題						
	①	<p>学習・グループ活動事業 町外から嫁に来た女性が、地域の魅力を認識し、地域に溶け込むための活動を行うとともに、地域の食の伝統の継承を目指す。また、地域の魅力を発信していく。</p>			<p>・新規会員の確保 1人/年 ・農産物加工実習の実施 1回/年 ・SNS を利用した由仁町農業・農村の魅力発信 10回/年</p>		<p>・新規会員の確保 ・地域の伝統的な農産物加工技術の習得 ・地域の魅力発信のための情報伝達技術の習得</p>						
	②	<p>乾燥野菜加工販売事業 乾燥野菜の加工及び試験販売を行う。製造工程の整備、効率化及び衛生管理を向上する。また、販売拡大のため、レシピの開発および商品の改良、販売PR方法の改善を行う。</p>			<p>・乾燥野菜製造販売の取組 70袋/年 ・製造マニュアルの作成 完成品1 ・製造工程の整備・効率化</p>		<p>・計画的な栽培・加工による商品の生産 ・製造工程の効率化および衛生管理の向上 ・商品の改良 ・レシピの開発、販売PR用パンフレットの作成</p>						
③	<p>交流事業 野菜販売を通して消費者交流をすすめる。 魅力あふれる地域づくりにつながるようなイベントとして「クリスマスイベント」を開催する。</p>			<p>・野菜直売の実施 4回/年 ・クリスマスイベント来場者数 100人/回</p>		<p>・会員の積極的な参加と計画的な栽培による品揃えの確保による野菜販売の拡充 ・野菜の特徴や調理に関する知識の向上 ・イベントの効果的なPRと開催内容の充実</p>							
3年間の活動プロセス	活動事項	関連NO	平成31年度			令和2年度			令和3年度			最終目標	適用事業
			内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標	内容	予算額	年度目標		
	学習・グループ活動事業	①②	先進地へのバス視察研修	170	1回/年開催	先進地へのバス視察研修	170	1回/年開催				活動の活性化と知識・スキルの習得、農産物加工技術習得	
		①②	農産物加工実習	30	1回/年開催	農産物加工実習	20	1回/年開催	農産物加工実習	24	1回/年開催		
	乾燥野菜加工販売事業	②	製造にかかる資材費	85	150袋/年製造	製造にかかる資材費	60	70袋/年製造	製造にかかる資材費	30	70袋/年製造	地域特産品として生産体制を整え本格販売を開始する	
		②	販売促進にかかる資材費	90	名刺・ショップカード800枚エプロン20枚	販売促進にかかる資材費	45	レジ金庫商品表示シール					
		②③	販売促進にかかる出店料・運搬料	60	クラシェ2回	販売促進にかかる出店料・運搬料	35	愛食フェア1回					
	交流事業	②	レシピ開発・作成	30	レシピ集300部								
		②③	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット作成	30	ポスター40部 チラシ200部	クリスマスイベントPRポスター・パンフレット作成	45	ポスター40部 パンフ150部 新聞折込2,000部	野菜直売にかかる包装、直売所設置資材費	120	4回/年	地域のイベントとして定着させ、消費者交流の場とする	
					クリスマスイベントにかかる装飾費	90	タープ ランタン	クリスマスイベントにかかる装飾費、PR費	73	ポスター40部 会場用パンフ150部			
計			495			465			247				
関係者等	由仁町産業振興課農政担当				主査				関澤 和之（連絡先 0123-83-2114）				

令和 3年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【空知総合振興局】

市町村名	由仁町		活動地区名	由仁地区	
活動団体名	WEAVE				
関連No.	内容	項目(費目)	金額	積算根拠	
①	農産物加工実習(味噌製造)	10_需用費	4,000	漬物樽袋	
		07_報償費	20,000	講師謝礼5000円×4hr	
②	乾燥野菜製造販売	10_需用費	30,000	食品用フリーザーバック	
				キッチンペーパー	
				乾燥剤 等	
③	野菜直売	10_需用費	120,000	パッケージ用シール	
				折り畳みテーブル	
				カード立て 等	
③	クリスマスイベント	10_需用費	73,000	PR用ポスター	
				会場用パンフレット	
				折込チラシ 等	
	活動支援	10_需用費	76,000	トナー代 等	
合計			323,000		
費目計		07_報償費	20,000		
		08_旅費	0		
		10_需用費	303,000		
		11_役務費	0		
		12_委託料	0		
		13_使用料及び貸借料	0		

北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業 活動計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町		活動地区名	オホーツク広域		活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議	
活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> 活動参画団体間の意見交換、情報交換を通じ、人材交流を図るとともに担当者の企画運営力のスキルアップをめざす。 各地域の個性や特性を活かして取組んでいる活動参画団体の各種事業を有機的に構成し、旅行者に提供する体制を整え、オホーツク地域圏での長期滞在者増加を促進する。 地域間の連携を深め、地域住民の参加や協力を得ながら、体験型観光の広域的な受入体制及び教育旅行の広域的な受入体制を構築し、新たな集客を図り地域の活性化を図る。 							
活動の方向	No	活動の目的		活動の内容		目標(数量・定性)		
	①	<ul style="list-style-type: none"> 広域連携の必要性、優位性についての意思統一 各団体間の協力体制の強化 広域連携による具体的な仕組み、商品の開発 		<ul style="list-style-type: none"> 連携会議の運営、幹事会・部会の開催 各団体の取組みを知り広域連携体制の構築を図る 地域住民の協力拡大に向けた研修会等の開催 		<ul style="list-style-type: none"> 幹事会、部会開催回数 年4回 各団体を訪問する現地研修会開催回数 年1回 地域住民対象の研修会回数 年1回 		
	②	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド、FITに対応した広域連携による農山漁村活用型の体験コンテンツ造成とガイド人材の育成 教育旅行に対応した体験型コンテンツ造成及び異業種連携による受入体制の構築 		<ul style="list-style-type: none"> インバウンド、FIT対応型広域連携による体験コンテンツツアーの試験実施 ガイド育成、ガイドレベル向上を図る講習会等の開催 教育旅行における体験型コンテンツの試験実施 異業種間連携の意識醸成を図るセミナーの開催 		<ul style="list-style-type: none"> 体験型コンテンツモニターツアー実施(インバウンド、FIT、教育旅行) 年2回 ガイド育成講習会の開催 年2回 異業種間連携強化のためのセミナー開催 年1回 		
③	<ul style="list-style-type: none"> 管内広域連携による教育旅行受入体制の拡大 教育旅行受入体制の整備 		<ul style="list-style-type: none"> 農業体験時に必要な長靴、ツナギ服を確保し、受入体制の充実を図る 先進事例を学ぶ研修会等を開催し、受入農家の拡大と推進態勢の強化を図る 		<ul style="list-style-type: none"> 受入地域の拡大 2団体 → 5団体 地域間連携による教育旅行受入実施 			
3年間の活動プロセス	関連No	令和3年度		令和4年度		令和5年度		
		内容	予算額	内容	予算額	内容	予算額	
	①	<ul style="list-style-type: none"> 各団体を訪問する現地研修会開催(体験料等) 地域住民参加型の研修会開催(講師謝金、旅費、会場使用料) (小計)	・16千円 ・79千円 (95千円)	<ul style="list-style-type: none"> 各団体を訪問する現地研修会開催(体験料等) 地域住民参加型の研修会開催(講師謝金、旅費、会場使用料) (小計)	・16千円 ・79千円 (95千円)	<ul style="list-style-type: none"> 各団体を訪問する現地研修会開催(体験料等) 地域住民参加型の研修会開催(講師謝金、旅費、会場使用料) (小計)	・16千円 ・79千円 (95千円)	
	②	<ul style="list-style-type: none"> 体験コンテンツツアーPR動画作成 ガイド育成講習会(2回) 体験型コンテンツモニターツアー(バス借上料) 異業種間連携強化を図るセミナー開催(1回) (小計)	・103千円 ・158千円 ・150千円 ・79千円 (490千円)	<ul style="list-style-type: none"> 体験コンテンツツアーPR事業費(イベント出展用品作成) ガイド育成講習会(2回) 体験型コンテンツモニターツアー(バス借上料) 異業種間連携強化を図るセミナー開催(1回) (小計)	・200千円 ・100千円 ・150千円 ・50千円 (500千円)	<ul style="list-style-type: none"> 体験コンテンツモニターツアー開催(連携機関のガイドが造成したコンテンツ)(バス借上料) 体験コンテンツエリアマップ作成 (小計)	・200千円 ・300千円 (500千円)	
	③	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行受入用長靴(42足) 教育旅行受入用ツナギ服(44着) 霧吹き型ボトル(10本) 消毒液(5L×5) 教育旅行推進研修会(1回) 教育旅行モニターツアー(バス借上料) (小計)	・93千円 ・119千円 ・6千円 ・60千円 ・61千円 ・140千円 (479千円)	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行受入用長靴(69足) 教育旅行受入用ツナギ服(69着) 非接触型電子体温計(5個) 霧吹き型ボトル(10本) 消毒液(5L×3) 教育旅行推進研修会(1回) (小計)	・152千円 ・187千円 ・37千円 ・6千円 ・36千円 ・61千円 (479千円)	<ul style="list-style-type: none"> 教育旅行受入用長靴(52足) 教育旅行受入用ツナギ服(51着) 非接触型電子体温計(5個) 霧吹き型ボトル(10本) 消毒液(5L×7) 教育旅行推進研修会(1回) (小計)	・115千円 ・138千円 ・37千円 ・6千円 ・84千円 ・61千円 (441千円)	
合計		1,064千円		1,074千円		1,036千円		
関係機関・団体	農林水産省北海道農政事務所							
連携・協力機関・団体	株式会社農協観光北見支店							

令和3年度 北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業
地域活動支援事業実施計画

【オホーツク総合振興局】

市町村名	美幌町、網走市、小清水町、津別町、大空町、北見市、滝上町	活動地区名	オホーツク広域	
活動団体名	オホーツク農村ツーリズム連携会議			
関連No.	内容	項目(費目)	金額(円)	積算根拠
①	・各団体訪問、現地研修会開催	11_役務費	16,000	体験料・@1,600円×10名
		07_報償費	39,000	(講演料)@13,000円/時×3時間×1回
	・地域住民参加型研修会開催	08_旅費	35,000	(道内1泊2日)@35,000円/回×1回
		13_使用料及び貸借料	5,000	(会場使用料)@5,000円/回×1回
小計			95,000	
②	・PR動画撮影	12_委託料	103,000	(近隣市町の業者)一式・103,000円
		07_報償費	78,000	(講演料)@39,000円/回×2回
	・ガイド講習会	08_旅費	70,000	(道内1泊2日)@35,000円/回×2回
		13_使用料及び貸借料	10,000	(会場使用料)@5,000円/回×2回
	・体験型コンテンツモニターツアーバス借上料	13_使用料及び貸借料	150,000	@75,000円/回×2回
		07_報償費	39,000	@39,000円/回×1回
・異業種間連携セミナー	08_旅費	35,000	(道内1泊2日)@35,000円/回×1回	
	13_使用料及び貸借料	5,000	(会場使用料)@5,000円/回×1回	
小計			490,000	
③	・教育旅行受入用長靴	10_需用費	92,400	@2,200円×42足
		10_需用費	118,800	@2,700円×44着
	・霧吹き型ボトル	10_需用費	6,000	@600円×10本
		10_需用費	60,000	@12,000円×5本
	・教育旅行推進研修会	07_報償費	26,000	(講演料)@13,000円/時×2時間×1回
		08_旅費	35,000	(道内1泊2日)@35,000円/1名×1回
・教育旅行モニターツアーバス借上料(大阪市内の高校)	13_使用料及び貸借料	140,000	@35,000円/1台×2台×2日	
小計			478,200	
合計			1,063,200	
費目計		07_報償費	182,000	
		08_旅費	175,000	
		10_需用費	277,200	
		11_役務費	16,000	
		12_委託料	103,000	
		13_使用料及び貸借料	310,000	

地域活動支援事業における支援対象経費について

地域活動支援事業における支援対象経費は、「北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施方針に係る運用について」において、報償費、旅費、需要費、役務費、委託料、使用料及び賃借料としている。

具体例としては、

- 講演会、勉強会開催における講師への謝金と旅費
- 講演会、勉強会開催における会場借上げ代
- 先進地視察のためのバス借上げ代
- 食育活動、加工品試作のための材料費
- パンフレット、チラシ等の作成
- イベント等で着用するPR用のはっぴやエプロン、のぼり等の作成
- イベント会場でのアンケート調査のための経費
- 小川や池沼、フットパスの簡易整備に必要な資材購入

などを経費として認め、人件費、備品購入費、活動団体メンバーに対する旅費は対象外としている。

このうち先進地視察については、道内で借上げバス移動が可能な地域を視察箇所（宿泊、食事代は自己負担）としてきたが、道外にも優良事例、活動の参考となる地域は多数あり、道外に視察箇所を広げることで、地域活動支援事業の効果的な推進や採択地区数の増加も期待できると考えられる。

以上のことから今後、道外先進地や、道内でも借上げバスでの行程が難しい箇所の視察を可能とし、この場合、活動団体メンバーに対して旅費の支給を認めることとする。

なお、旅費を支給する場合は、活動団体から2名程度、関係機関1名、振興局職員1名の計4名程度とし、戻ってから視察報告をメンバー間で共有することを条件とする。

令和2年度 地域づくり研修会 アンケート集計

Q1・Q2 性別・年齢

	男性	女性	合計
～20代	2	3	5
30代	1	0	1
40代	11	1	12
50代	7	3	10
60代	6	1	7
70代～	2	0	2
合計	29	8	37

Q3 基調講演の内容はいかがでしたか？

	回答数	割合
大変よかった	13	35.14%
よかった	18	48.65%
普通	6	16.22%
あまりよくなかった	0	0.00%
よくなかった	0	0.00%
合計	37	100.00%

Q4 パネルディスカッションの内容はいかがでしたか？

	回答数	割合
大変よかった	17	45.95%
よかった	18	48.65%
普通	2	5.41%
あまりよくなかった	0	0.00%
よくなかった	0	0.00%
合計	37	100.00%

Q5 今回のテーマに関し、皆様の活動において、新型コロナウイルスの感染拡大による影響や、それを踏まえて今後の活動に当たり考えていることを御記入下さい。

- ・とにかく新型コロナウイルス感染症が終息しないと何も出来ないが、少人数での事業を進めていきたい(北海道スタイルで)。講演を聞いて新型コロナウイルスに負けないで頑張りたいと思った。
- ・Webの活用を考えている。
- ・コロナの終息を望む。
- ・現在コロナ禍により、令和2年度の地域の祭りや事業が休止及び中止になり、過疎地域は特に人の動きがなく地域衰退が加速している中、オンラインを含めて今回の研修を参考にしていきたい。
- ・具体案はないけど、このコロナ禍を鑑みた活動の糸口を見つけ出すために、新しいものにチャレンジすることは大事だと思う。なのでこの研修会に参加して良かったと思う。
- ・20年続いていた「田んぼの学校」が全て中止になった。小学生を対象に実施していた土地改良施設の見学会も中止になった。新型コロナウイルスの影響はとてもあるんで、令和3年度の活動については不明である。
- ・もう少し感染拡大が終息することを待つ必要はあると思う。しかし過去とは違う活動手法も取り入れる必要はある。
- ・行政として今回のディスカッションであったとおり、様々な視点から支援していく必要があると思った。
- ・新型コロナウイルスの影響で指導員の地域活動やブロック会議が中止になるなど、制約が多い状況の中、今回、リモートで参加をしたが、コロナ禍でも情報発信や意見交換の場が設けられたことが良かったと思う。悪天候の中でも研修会が出来たので、今後はリモートにより、今まで参加できなかった指導員も参加しやすくなると期待している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が無ければ、web会議の必要性も感じなかったと思う。また、web会議が普及するとweb端末及び会場の確保が難しくなってくるため、早めの連絡調整が必要となってくる。(今回の会場確保ができなかった。)
- ・地域のイベントが中止になったことで活動の機会が狭まった。他にも高校との連携や有志の大学生を募っての作業体験等の企画も考えられていましたが、見通しがたたなくなった。それらを踏まえ、予定していた活動を延期すること、またイベント以外の活動(地域の連携促進等)に注力することといったことが検討されている。
- ・屋外活動が主(小学生の田植え、稲刈り、川の生物調査等)なので、あまり密にならない活動ではあるが、感染対策を施し実施している。今後も、感染対策を施し、実施していきたい。
- ・令和2年度は本当に模索しながらの活動です(継続中)。6月の自粛解除後、行った伝統食の料理教室はデモンストレーション、講演、持ち帰りBOX(ランチ)と7月開催にしては先端をいっていたと思う。屋外での収穫体験や材料を渡して作った物をデータで貰うという宿題型食育活動など工夫しながらも「歩みを止めずに」きた。延期にしてしまった年末の講演会(中止になりましたが)も北海道スタイルを充分に守った開催準備だけだけに残念です。映画の方は3月4日に同じ会場で開催予定。伝統食の味噌づくり教室も今月2回とアレルギー食対策料理教室を1回やります。コロナ禍で困っている方々が多い中、産後育児で家にいて鬱になりそうなママへの声かけでの味噌づくり。今後 必要な対象になっていくと来年度も計画に入れたところ。メンバーとの会議はLINE動画会議。ぜひともZoomに関するサポート(容量など)と中止になった講演会のサポートをお願いしたい。
- ・今回のようにZOOM等による非接触型の研修会や取り組みが多くなると思う。

- ・感染対策を十分にし、できる範囲で地域活動を行いたい。
- ・やはり、この状況の中でできることを考えてやっていくのが良いと思う。できることは限られるが、前向きに取り組んでいけたらと考えている。
- ・各活動に関し、三密を避けることを前提に検討しており、主に活動組織が主体となり判断している(非常事態宣言時は除く)。現時点では、特に感染拡大に至っていないが、現況の消息を願っています。
- ・行政からオンライン整備に協力いただくと良い方向に進めると思う。
- ・物事が変わる現状になっている中で、それに合わせ仕事の仕方や考え方もアップデートし、適応力が求められていると思っている。それを今回の研修会で示して頂き、私の考え方が間違いでは無いと確信したところ。生き残り(進化)の為には馴れていく、馴れさせる事を考えながら、ふる水の取組が出来たらと思う。
- ・会議や講習会をリモートで行うことで、現地への移動時間や経費を削減できるので良いと思う。
- ・会議、会合などが開催するのが難しい状況にはなったが、「集まって会議をやらなくても問題なく進める方法はある、今までの会議の形式にこだわることはない」ということに気づかされる。基調講演にもあったが、コロナ禍で学ぶこと、変化していくことに前向きに取り組みたいと思う。
- ・組織における目標の認識や新たな商品開発の時間を作る。
- ・昨年は室内で開催していた即売会を、感染防止の対策をとりながら屋外で開催した。いろいろな事が中止になり、来て下さる方々も「たまに外に出れて楽しかった」と言って頂いた。今年も屋外で実施したいと思う。産直の方は特にコロナの影響はない。
- ・ミーティングやワークショップでZoomを利用する機会が多くなった。今後は現地開催とWeb開催の併用が不可欠になってくると思った。そうすると町外の方との連携の可能性が広がるので地域づくりの方法も再検討したいと思っている。

Q6 その他、お気づきの点や今後、地域づくり研修会で取り上げてほしいテーマ・内容などがありましたら、ご記入ください。

- ・多面的機能支払交付金、中山間直接支払制度について。
- ・パネリストの発表時間が10分だと短いような気がする。せつかくの資料が足早な説明になる。もう少し聴きたい。
- ・北海道にいても、なかなか行けないところも多いので、色々なところの情報が聞けて良かった。色々なところの農泊、食育体験授業などもっと聞きたい。
- ・バーチャル宿泊や観光など、コロナ禍でも新たな活動方法を事例報告して取り上げて頂いたの、今後の参考にさせて頂きたい。
- ・仲間の作り方と行政への要望の仕方。現在の街に単身赴任で住んで2年。相談相手が見つからない。一人で何もできない状態。また、町役場は、余計な相談事をしないでほしい姿勢が、ありありで困っている。
- ・Web参加者にはチャットで質問や意見をあげてもらい、必要に応じて音声通話にした方がいいと思う。
- ・Web開催だと、どこでも参加できる便利な面もあるものの、ただ参加している状況になる。特に今回は回線安定のためカメラオフだったので、ただ一方的な配信となってしまったのではと思う。本別について谷口さんの報告は、持ち時間10分に41枚(当日さらに増えていたように・・・)でしたが、地域の指導員の方が中心となり、地元の方と地域振興に取り組んでいる「ふる水事業の軌跡」を示されたものだったと思う。
- ・これまでふるさと・水と土保全対策事業に関わったことがないため、これまでこの事業の発足した経緯や目的など簡潔にでも説明いただけるとありがたい。パネリストの方々の個別の取り組みについて貴重な話を聞くことができただけに、パネルディスカッション時に出席者から質問が特に出ないなど少々寂しいなと感じた。
- ・Zoomでお話したかった事はいっぱいありましたが、チャットでは書ききれず断念した。豆フォーラム(国際マメ年)を過去に開いた経験があったのでぜひ頑張ってもらいたいと伝えたかった。八雲の方には、お話の中でフランス人が滞在中とのことでしたが、27日に私達が実施する味噌づくり教室へ申し込みされている方々と思い、一言「つながってますね」と伝えたかった。
- ・パネルディスカッションでの赤井氏からの意見で「新型コロナの影響により、まだまだ続けてほしいけど廃業に追い込まれる飲食店が増えるのが怖い」「新しいこと(チャレンジ)を行うための支援をお願いしたい」との言葉が印象に残った。確かに、新型コロナで様々な沈んだ分を取り戻すためには、それ以上、または新たなこと(チャレンジ)を行わないと難しいと思うし、その様に前向きに考える人の支援は非常に重要なものでは思った。
- ・山本先生、谷口氏・赤井氏・佐藤氏の報告で共通する意見としては、SNSやオンライン〇〇の重要性。コロナ禍でもオンラインを活用することにより新たな試みも可能となる。しかし、特に高齢者や不得意な人は参加できなくなるのが課題。このことより、本研修会でもSNSやオンラインに特化した研修内容にするのも今後は必要なのではないかと。例えばオンラインやSNSを活用した成功事例や行政に求めるSNS活用。または、技術的な勉強会的なもの。
- ・情報発信について

・初めてZoomを使用した会議に出席しましたが、事前の周知のお陰もあり支障なかった。途中、進行が滞った場面もあったが、これまでは中止されていたことが開催されたこと、佐藤氏がリモートでディスカッションに滞りなく参加できたことについては、同様の会議の在り方について参考となった。

・Zoomでの打合せや会議などは、この状況の中では非常に有効であり、また、管内や管外の指導員同士の打合せや情報共有の手段として非常に有効であると思われる。このことからZoom等の取扱に係る講習会を指導員を対象として出来れば良いのでは？

・今回、オンラインで参加させて頂いた。パネルディスカッションがスムーズに出来たら良かったと思った。コロナの中で新しく取り組みをはじめたことがある方々や地元で活躍されている方々の話が聞きたい。

・講演を聴くだけならオンラインで十分と思う。会場後ろからのカメラと講演者をアップカメラで撮影する方法は空気感こそ伝わりませんが、会場の様子が分かり良いと思った。オンライン参加者は皆さんクローズにしていたが、少人数ならオープンにすると臨場感が増すかとも思う。

・パネラーの資料がないのは残念。スライドの展開も早く、すばらしい活動であるのは伝わるのですが、もう少し具体的なところを知りたかった(特に谷口さんの活動)。

・イベントに焦点を当てるのは面白いが、人がたくさん係わると思うので、誰がどういう動きをしたかとか、行政はどのような動きをしたかとか、どんな事業を使ったかとか、成果発表会になりがちですが、背後にある行政側目線の講演会があっても面白いかと思った。

・地域づくり団体のほとんどが補助金をメインとした事業になっているように感じる。地域づくり自体が活動収益に繋がったり、メインとなる収益事業をやりながら地域づくりも行っている事例など見てみたい。